

第83回

VACATION

聴き比べ……楽しいな!

独断ながら、昭和歌謡がバラエティーに富み、最も意気盛んだった時期とは、昭和40年代後半(1970年頃)からの十数年間ではなかったか、という思いがあります。

その一昔前には欧米産の多くのカバー曲が若者を魅了していました。自国産ではないため昭和歌謡の範疇からは除かれがちですが、昭和歌謡を支えた歌手・作家・制作者にとつて、間違いなく大きな刺激となったはずです。

そのカバー曲の全盛期はいつだったか。個人的見解にはなりますが、ピークは昭和35年からビートルズ旋風上陸前年の昭和38年までだった、と私は解釈しています。

数多くカバーされた女性シンガーの代表はコニー・フランシスであることは言を俟たず、その代表曲の一つが、昭和37年10月に日本で発売された『ヴァケイション』でしょう。

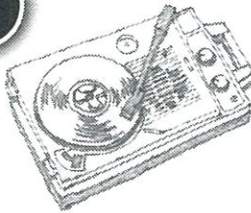
大ヒットを象徴する現象として、英語の授業で「VACATION」の理解率が異常に高かったことがあ

ります。今では、弘田三枝子バージョンしか知られていませんが、当時のコニー人気は多くの競作を生みま

名曲カルテ

昭和歌謡と
いつまでも

堀井六郎
絵 松本 浦



した。

★弘田三枝子『ヴァケイション』、当時15歳。デビュー第3弾、カバー時代の彼女の代表作。

★伊東ゆかり『ヴァケイション』、当時15歳。オリジナルのキーより5音下げているので、ほかと聴き比べると、落ち着いた印象です。

★青山ミチ『ヴァケイション』、当時13歳。デビュー曲にもかかわらず、弘田に負けないほどの迫力に圧倒されます。

★金井克子『バケイション』、デビュー第2弾。さすがのリズム感ですが、当時17歳にして、すでに黒い網タイツ姿を披露しているジャケットが目が行ってしまいます。

★安村昌子『バケイション』、当時13歳。未聴ですが、同年齢だった田

代みどり、12歳の梅木マリらとともに「ミルクティーン」と称されて人

気のあった少女歌手の一人です。

そして、コニー盤から11年後、私のいちばんのお気に入りカバー盤が登場します。

★山口百恵『バケイション』、当時14歳。彼女は昭和48年5月にシングル盤『としごろ』でデビューしますが、その3か月後に発売された最初のLP盤に収録(デビュー曲と似た明るい歌謡ポップス系オリジナル6曲とコニーの持ち歌4曲を含めたカバー6曲で構成)。

デビュー・シングル『としごろ』ではまだ歌いこみ不足もあったのでしよう、歌声に不安定さを感じられたものでしたが、カバー曲、特にこの『バケイション』と『ポイハン』での歌声は実に魅力的で、こうしたタイプの曲を歌うことが楽しいといった本人の気持ちが伝わってくるようです。むしろ彼女の本質はこの最初のアルバム(B面に潜んでいた)のかもしれない、と思わせてくれるほどです。

昭和を通じて、デビュー間もないローティーン少女らの健康的な若さと躍動感をアピールするのに、この曲はうってつけだったのでしょ

